

編集後記

ご覧になられた読者も多いかもしれないが、先日たまたま「Contagion」という2011年のアメリカ映画を観たところ、現在の新型コロナウイルス感染症に極めて似た状況が描かれていたので驚いた。制作時期を考えてみると新型インフルエンザやSARSを参考に作られたのだから似ているのも道理ではあるが、9年後に新型コロナウイルス感染症を経験している今は、格別な臨場感をもって観ることができるのである。あらすじを紹介すると、未知のウイルスを持つコウモリが中国の森林開発で逃げ出し、食べていたバナナのかけらを落とす。そのバナナをブタが食べて宿主となり、そのブタは香港に運ばれて屠殺され、それを調理したコックが手を洗わずにアメリカ女性と握手をした結果、彼女は感染してしまう。帰国後は瞬く間に全米中に感染症が広がり、都市封鎖、略奪、陰謀論、ワクチン開発競争、怪しげな治療法の流行など、現在目の当たりにしている場面が多数出てくるので大変興味深い。

それにしても7月中旬からの感染者数の増え様は凄まじい一言に尽きる。緊急事態宣言解除からわずか2カ月で第1波を軽く上回る感染者数であり、人間が移動するということは同時にウイルスも移動し、拡散していくということを日本中の人が目撃したのである。明らかにすぐに終わる闘いではないであろう。私

たちは長い闘いを覚悟して、新たな生き方、新たな仕組みをつくる良い機会としなくてははいけない。ちなみに前述の映画では、最終的にワクチン開発で幕を閉じるのであるが、これも早く現実になって欲しいと願う。

さて、9月増大号の特集テーマは奈良県立医科大学の田中康仁先生にご企画いただいた「整形外科診療におけるエコー入門－さあ使ってみよう超音波」である。整形外科領域でもエコーは必須の画像診断になりつつあり、エコーの研修会には多くの申し込みがなされている。昨年の第92回日本整形外科学会学術総会において、最も入場者数が多かったシンポジウムはエコーに関する内容であったと聞いており、まさに時宜を得た特集である。エコーでは、体表に近い関節や筋肉の画像において単純X線では得られない骨外の情報が得られるし、疾患別にいうと骨軟部腫瘍、関節リウマチ、小児整形領域などでは初期診断に大きな威力を持つ。治療においてもエコー下の関節内注射、神経ブロックは成功率を確実に向上させている。本特集は機種の選定方法、導入、基本的テクニックから始まり、部位別・疾患別などの専門的な内容までの14編から成るプラクティカルな内容に仕上がっている。本書がエコーを学ぶ読者の皆さんの知識・技術の向上に役立つことを切に願う。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第63巻 第10号 (9月増大号) 2020年9月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 4,400 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) [年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。